東日本大震災6周年シンポジウム 災害研の活動と新たな一歩

第二部 災害研の新たな一歩 「仙台防災枠組」

東北大学災害科学国際研究所 泉貴子





仙台防災枠組とは?

2015年3月「第3回国連世界防災会議」にて、187カ国の国連加盟国代表により採択。本体会議に6,500人以上、関連イベントには15万人以上が参加。

- 今後15年間に及ぶ国際的な防災 枠組み。
- 4つの優先行動と7つのターゲット が合意されました。
- 誰が、何を、どのように?何を目標とするのか?







「仙台防災枠組み」4つの優先行動

- 1. <u>災害リスクの理解</u>(これまでの災害記録から情報収集、防災知識・備えについて情報共有);
- 2. <u>災害リスク管理の強化</u>(それぞれが防 災対策を考え、活動に参加);
- 3. <u>災害リスク削減への投資(</u>施設やインフラの強化、災害医療分野の充実、環境保護などへの投資);
- 4. <u>災害対応への備えの向上と、復旧・復</u> <u>興過程における「より良い復興(Build</u> <u>Back Better)」</u>(緊急支援・対応メカニズム の強化、復興へ防災対策を反映)
- *リスク:予測できない危険、損害を受け る可能性。

- 災害被害の軽減から、災害リスクの 軽減へ(From reduction of disaster losses to reduction of disaster risk)
- 「何を」から「どのように」へ(From What to How)

具体的目標:

死亡者数、被災者数、直接経済損失、インフラへの損害の減少、防 災戦略を有する国家数の増加、国 際協力の強化、早期警戒システム の向上



UNIVERSITY

兵庫(2005年)から仙台(2015年)へ

兵庫行動枠組の主な成果

- 市民や各機関の防災への意識啓発、積極的な参加が実現。
- ・ 災害による死亡率の減少につながった。
- 国際・地域レベルで会合が増え、政策や戦略の立案、知識 や相互理解の増進に役立ってきた。
- あらゆるレベルの多様なステークホルダーが積極的に参加 した。

世界の災害被害の軽減に貢献。しかし、まだ不十分!!





兵庫(2005年)から仙台(2015年)へ

課題

- 10年間に70万人以上が死亡、140万人以上 が負傷、約2399万人が住む家を失った。**15億** 人以上の人々が災害の影響を受けた。
- ・ 女性・子供・高齢者など社会的に弱い立場の 人達は、より多くの影響を被っている。
- ・ 小規模災害や、徐々に発生する災害は、特に 地方やコミュニティレベルに影響を及ぼした。
- 貧困、不平等、気候変動、都市化、不十分な政策などの直接災害とは結びつかない要因 (潜在的リスク)は、災害被害を拡大する要因 となる。







何が求められているか?

- ① 政府・自治体:リスクを管理するために計画・政策を作成し、 女性、子供、高齢者、障害者など個別のサポートやニー ズを取り入れる
- ② 学術・企業: 災害リスク、特に潜在的リスクに焦点をあて、地域の活動を支援する。政策と科学の連携を支援。情報の提供、技術開発など。
- ③ コミュニティ: 計画・戦略の実施に参加、地域の防災知識の向上

あらゆるレベルの組織・機関の参加が必須!

公共・民間セクター、市民社会団体、学術および研究機関は、

より緊密に連携する必要がある。







ご清聴ありがとうございました。

「仙台防災枠組」実現に向けて、仙台から様々な教訓・経験を発信しましょう!



